

場面：事情説明

番号	画面	内容・台詞	時間
1		応接間。 堅太郎と清子の前に、たけるとお凜様が座っている。 他の面々は後ろで控えている。 堅太郎「えー、何さんでしたっけ？」	
2		たける「お凜様だよ」 堅太郎「では、お凜様で」 お凜様「どうぞ」	
3		堅太郎「カシラから少し聞きましたが、息子がいじめられていたそうで。あと、熊の怪人に襲われたとかなんとか……」	
4		お凜様「まず、いじめのことじゃが。たける君の足が遅いからって、鬼ごっこで鬼を押し付けられとった。寄ってたかって足の遅さをからかって、挙句の果てには殴る蹴るじゃ」	
5		堅太郎がたけるを見る。 堅太郎「初耳だぞ。今日だけか？」 たける「いつもだよ……」 堅太郎「何故言わなかった」 たける「馬鹿にされると思って」 清子「馬鹿になんてしないわよ」	






場面：事情説明

番号	画面	内容・台詞	時間
6		堅太郎「鬼ごっこは嫌だった。自分も足遅いからな……」 清子「私も足遅かったわ」 たける「そうだったの？」 お凜様「血じゃな……」	
7		堅太郎「いいか、足が遅いからって、周りから笑われる筋合なんかまったくない。運動能力なんて、努力だけではどうにもならない身体的な個人差があるからな。そういうものを馬鹿にしてくる方がおかしいんだ」	
8		堅太郎「鬼ごっこは鬼が主役だ。追いかける鬼がいないと成り立たない。たとえ足が遅くても、鬼を引き受けて一生懸命走ってる子の方が立派なんだぞ。鬼を押し付けていじめてくる奴がかっこいい訳ない。胸張っていいぞ」	
9		たけるが涙ぐむ。 たける「ずっと、ずっと悔しかった……。かんなちゃんと、きりお君だけだよ。足が遅いのを馬鹿にしないのは……」	
10		堅太郎「かんなちゃん、きりお君、こっちに」 堅太郎が手招きする。	


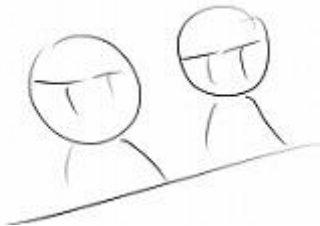



場面：事情説明

番号	画面	内容・台詞	時間
11		かなときりおがたけるの傍に座る。	
12		堅太郎「ありがとう。これからも、たけると仲良くしてやってくれ」	
13		かなときりおが涙ぐむ。 かな「たける君、私達が鬼の手先だって叩かれて、怒って立ち向かったの……」 きりお「それで、ボコボコにされて……」 清子「そんなこと……」	
14		かな「お凜様が、たける君を助けてくれたの……」 きりお「いじめっ子を、一発でぶっ飛ばしたんだ……」	
15		お凜様「子供相手に手荒なやり方じゃが、いじめっ子の曲がった性根を叩き直すにやそれしかなかった」	

場面：事情説明

番号	画面	内容・台詞	時間
16		堅太郎は縮こまってるやすお達に手招きする。 堅太郎「いじめっ子はお前達だな？ こっち来い」	
17		やすお達がたけるの後ろに座る。	
18		堅太郎「その背格好じゃ上級生だな？ 下級生を鬼ごっこでいじめるなんて恥ずかしいだろうが。足の遅い子に鬼を押し付けて逃げ回って強者ぶってよ、それで一体何を誇るんだ？ 呆れて物も言えないよ」	
19		堅太郎「まあ、お凜様が懲らしめて下さったみたいだから、これ以上追及はしないが、二度といじめをしないとここで誓え。たけるだけじゃなく、誰に対してもだ」	
20		やすお達が深く頭を下げる。 やすお「ごめんなさい。いじめはしません。誓います……」	


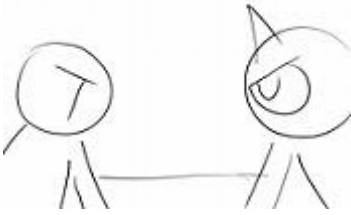



場面：事情説明

番号	画面	内容・台詞	時間
21		堅太郎「男に二言はないな？」 やすお「はい……」 堅太郎「この件はうちからご両親に伝えておく。下がっていい」 やすおが下がっていく。	
22		堅太郎がお凜様を見る。 堅太郎「話を切り換えましょう。熊の怪人ってのは？」	
23		お凜様「妖賊じゃ」 堅太郎「妖賊？」 お凜様「徒党を組んで悪事を働く妖怪じゃ。まさかり担いだ熊男が、あのいじめっ子達を襲って半殺しの血祭りにしおった」 清子「血祭り……」	
24		お凜様「わざと急所を外して、苦しみ悶えるんを楽しんどるようじゃった。食欲を満たすとかじゃなく、快樂のためじゃろう」 清子「酷い……」	
25		お凜様「そんな時はいじめっ子が狙われただけじゃったけえ、たける君達に危害があったわけじゃないが、そうなるおそれはあった。他人事じゃない」	




場面：事情説明

番号	画面	内容・台詞	時間
26		清子「まさか、そんな怪物がこの世にいるなんて……」 お凜様「いるで。わしら神族と妖賊は表裏一体、紙一重の存在じゃ。ま、どういわけか150年くらい出てこんかったが……」	
27		堅太郎「退治したんですか？」 お凜様「いや、追い払っただけじゃ。まだ生きとる」 堅太郎「じゃあ……」	
28		お凜様「熊男は必ず襲いかかってくるじゃろう。妖賊はしつこいで。においは掴まれとるから、どこにおっても追い回されるじゃろう。逃げても無駄じゃ」	
29		お凜様「たける君だけじゃなく、そこに居合わせた子達が皆、今や熊男の獲物じゃ。家に帰せば、親兄弟にも被害が及ぶはずじゃ。それは避けんといけん」	
30		達次郎「熊男を舐めちゃいけねえ。上州で登山者を皆殺しにして、仲間の鎮守神をことごとく討ち取られちまった。俺の親分も……」	


場面：事情説明

番号	画面	内容・台詞	時間
31		お凜様「熊男の動向はわからん。今この瞬間でも、わしの与り知らんところで犠牲者が出とるかもしれん……。じゃが、少なくとも、わしの守護下におれば、なんとかなる」	
32		堅太郎「もはや、避けようがないと」 お凜様「残念じゃが……」	
33		お凜様「お願いじゃ。熊男から子供達を守るため、ここに匿うとくれ」	
34		堅太郎「うちが巻き添えを食うということでは？」	
35		お凜様「じゃあ、どこに？ 山籠もりでも？」	

場面：事情説明

番号	画面	内容・台詞	時間
36		堅太郎「わかりました。子供達の安全のためなら……。引き受けましょう」	
37		お凜様「わしらが見張りをするけえ、安心してくれ」 牙吉「任しときなよ」 飛丸「任すでやんす」	
38		堅太郎「うちは旅館なんで、訪問者をお泊めしてなんぼです。子供達のご両親にはうまく言っときましょう」	
39		清子「警察にも相談した方が……」	
40		お凜様「相手は人知を超えた妖賊じゃぞ。警察なんぞ役には立たん。そもそも信じてくれんじゃろう」	

場面：事情説明

番号	画面	内容・台詞	時間
41		堅太郎「今日から全館貸切にします。大したことはできませんが、施設は自由にお使い下さい」 お凜様「ありがとう」	
42			
43			
44			
45			